

週日の説教

金 大烈 神父 2010年8月24日(火)

《来て、見なさい》

今日の福音(ヨハネ 1・45 51)を読んで、何年か前に話したことを思い出したのですが、今日は少し違う角度から考えたいと思います。

今日の福音では、フィリポが、友達のナタナエルにイエス様を紹介していますよね。「ナザレの人で、預言者達がいろいろな預言をしていた人物だと思う。」とナタナエルに話します。するとナタナエルは、「ナザレのような田舎から偉い人が生まれるはずはない。」とフィリポの言葉を疑います。その時、フィリポの口から大事な言葉が出ます。『来て、見なさい。』と。この「来て、見なさい。」という言葉は、どういう意味なのでしょう。この言葉が含んでいる意味は何でしょうか。

昨年12月31日そして今年の元旦に、私は皆様に「全員が宣教者になって、述べ伝える一年になってほしい。」と申しあげましたね。大きい声での「はい」という返事はなかったのですが、「従わなければ怒られるだろう。」くらいの気持ちにはなっただけだと思います。そうではありませんか？(笑い)私の言葉をどのくらい気にして実践しているのか、まだ分かりません。しかし、少なくとも気にはしているのでしょう。だから、時々皆様から「どのように述べ伝えればよいのでしょうか。」と聞かれることがあります。講話のように、大勢の人の前で、大きな声で、「主イエスを信じなさい。」と叫ぶべきなのか、それとも、一人ひとりと親しい感情を作り、「一緒に行ってみよう。」と誘うくらいがよいのか。いろいろな質問を受けます。

それについて、今日私が皆様に紹介したいのは『来て、見なさい。』という言葉です。100回話すより、1000回話すより、直接来て体験するのが一番よいのです。信じるべきか、だまされているのか、それを確認するために「来て、見る」ことが一番必要なのです。「ただ、『来て、見る』くらいならば、だまされたとしても試してみる価値はあるでしょう。」と伝えてください。

では、来たのに見せるものがなかったらどうしますか？「来て、見なさい。」と言われてついて来た相手は、何も見るものがなかったら、どう思うのでしょうか？しかし私は、3年間、力を合わせて頑張ってきて、ある程度準備は出来ていると確信しています。だから3年経った今、「来て、見なさい。」と伝えるように話しているのです。

皆様には、自分が信じているこの信仰に、是非誇りを持ってほしいと思います。この信仰、この宝物に、もう少し自信を持って「あの人は、自分の信仰に対して自信が多すぎるのではないか。」と言われるくらいになってほしいです。見せる方に自信や確信がなければ、人を連れて行けるはずはありません。「来て、見なさい。」という言葉が自然に口から出るように努力をすれば、必ず実ります。

今日、二人の方が初めて教会に来ていますが、この方達は自分から足を運んで来ました。これは、私達としては、ただでいただくプレゼントのようなものです。皆様の努力によるものではありません。

せん。自分の家族にさえ手を伸ばさない私達の姿に反省しましょう。どう考えてもひどいです。ご自分だけ天国に行きたいのでしょうか。こんなわがままな信仰がどこにあるのでしょうか。

「来て、見なさい。」と叫びましょう。信仰は、1人で行くものではありません。愛する人と一緒に、約束された国に入ることに意味があるのです。自分だけ行って寂しくなるのでは意味はないのです。自分の振る舞い、自分の視線によって、イエス様に親しみを持ち、イエス様と出会える人が1人でもできれば、何という幸いでしょう。しかし、分かってはいるのに、私達は何もしていません。こういう問題と一緒に腹を立てましょう。

私は3年前にここへ来た時、「たぶん2年後には、休んでいる信者さんや今までカトリックを知らなかった人たちで、聖堂は入りきれなくなるのだろう。」と思いました。しかし、それはやはり傲慢でした。それは、協力がなければできないのです。私の客観的な判断では、もう皆様のレベルは、十分に人に手を伸ばして誘い、質問に答えられるくらいになっていると思います。準備は出来ているのだから、手を伸ばしましょう。「来て、見なさい。」という心を準備しましょう。そして実践に移しましょう。

ありがとうございました。